

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム No.13 きのこの駒打ち体験

学校名	高知市立高須小学校
学年	4年生
児童数	88名
実施場所	高須小学校内自然林付近
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの身近にある木や草花に親しむ活動を通して、自然のすばらしさ、おもしろさ、不思議さなどを感じ取ることができる。</li> <li>・自分たちと身近な自然との結び付きを考え、自然を大切にしていこうとする態度を育てる。</li> </ul>
実施教科	総合的な学習の時間
関連教科	社会科、理科、国語科、図画工作科
持ち物	筆記用具、学習記録用紙・ボード、軍手、水筒

実施項目	「草花・樹木を通して自然を考えよう」しいたけの駒打ち体験
対象プログラム	No.13 きのこの駒打ち体験
所要時間	90分程度
実施内容	<p>当初の実施予定日が雨天のため、日を変更して実施した。講師は甫喜ヶ峰森林公園から6名で対応し、原木54本、菌駒（しいたけ1,000個4袋）、紙皿、木槌、金槌、電動ドリル、延長コード、遮光用ネット、説明ボードを準備していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>事前説明</u> 講師から森の働きと役割、きのこの生育場所や菌種3種、しいたけの栽培方法について、15分程度の説明を受けた。</li> <li>・<u>体験学習：しいたけの駒打ち体験</u> 作業時間は60分程度。二人一組で原木1本（長さ90cm）を受け取り、木の表面の長軸に沿って7か所を4列に専用の電動ドリルを使って穴をあけた。ドリルはスタッフが補助し、児童が穴あけ作業を行った。次に、穴にしいたけの菌駒を金槌や木槌で打ち付ける植菌を行った。駒打ちした原木を運び、校内の自然林内に講師スタッフが並びたて、遮光ネットをかけて終了した。講師からしいたけの栽培方法について説明を受け、最後に児童ら5名が感想を述べ、体験プログラムを終了した。</li> </ul> <p>（しいたけの栽培方法について） 夏場の35℃以上では水やりを欠かさず乾燥させないこと、冬場は5℃以下になると成長が止まることなど、水やりの管理について、また、他のキノコ類の発生と</p>

栽培管理の方法について、カタツムリやナメクジはしいたけを好物としているので見つけたら除去することなどを説明した。しいたけの収穫は2年後（6年生）の春から秋になるとのこと。

#### 実施風景



#### 補足

その他、プログラムの  
特徴

・学習の流れとして、導入に校内の樹木や植物の名前を調べ、体験に紙漉き、木工クラフト、しいたけの駒打ち等の体験を行い、発展に1年間調べてきたことについてグループでまとめ、森林の大切さを3年生に伝える。

・他の教科との学習との関連について

社会科：水の学習から森林の働きについて、また、山地の暮らし、森林を生かした地場産業やその変遷について学習する。

理科：年間を通じて季節ごとの植物や動物の活動について調べ、成長や活動と季節の関わりについて学習する。

国語科：知らせたい内容を分かりやすく伝えるためのパネルづくりを行う。

図画工作科：木の特徴を生かしてのこぎりを使って壁掛けを作る。